

北海道の地理的環境

【現在の北海道】

北海道はアジア大陸の東に伸びる日本列島の北端に位置しています。日本海、オホーツク海、太平洋に囲まれ、北は宗谷海峡を隔ててサハリン島と、南は幅わずか約19kmの津軽海峡を挟んで本州と向き合っています。この津軽海峡には暖流である対馬海流の分流(津軽暖流)が、毎時約3ノットで日本海から太平洋に流れており、地元では「しょっぱい川」とも呼ばれています。

北海道は北海道本島の他に、利尻島、礼文島、奥尻島などの島々で構成されています。北海道本島の面積は77,984.41km²と广大で、現在の植生分布を見ると、日高山脈など北海道の中央を走る山々を境として、南西部は落葉広葉樹林、北東部は北方針・広混交林と大まかに分かれています。



北海道と周辺の地域

この地図は国土地理院の電子地図を使用。

【縄文以前の北海道】

初めて北海道に人類が住んだのは、今から約3万年前の旧石器時代です。この頃は更新世後半の最終氷期にあたり、海面は現在より100mほど低下していたため、日本列島は今とは異なる地形を呈していました。本州は四国、九州と陸続きになった“古本州島”を形成し、北海道はアジア大陸と陸続きになったサハリンとつながり、大陸北東部に突き出た半島の一部になっていました。約2万年前に最寒冷期を迎えると、平均気温は現在より7～8度も低くなり海面も130mも低下しますが、津軽海峡は最も浅いところでも深度が140m以上あるので、北海道島と古本州島は海で隔てられたままでした。そのため、現在でも北海道の動植物相は、津軽海峡を越えた本州よりもアムール川下流域などに近い分布になっています。また、対馬海峡はほぼ閉じていたため、日本海は大きな湖のようになっていました。

気温が低かったことにより、植生分布も現在とは異なり、南西部が常緑針葉樹林、北東部は落葉針葉樹林であったと推測されています。



約2万年前の北海道周辺の地形

この地図は国土地理院の電子地図を使用。